

楽しく学び、賢く生きる。

絵画のおいしい味わい方

— さあ、美術館へ。ぜひ。

関西大学創立130周年記念
「この伝統を、超える未来を。」
特別連続セミナー



美術作品の中には、色や形、構図の組み立てなど、作者名やタイトル、製作年代、製作地などの「文献情報」以上に豊かな、無数の「視覚言語情報」が詰まっています。作品に込められた思いやメッセージを実感できれば、作品鑑賞はこれまで以上に味わい深いものとなるでしょう。全4回の連続セミナーでは、みなさんと一緒に実際の作品を読み解きながら、専門家ならではの「プロの見方」をお伝えします。

お申し込み方法

1.FAXでお申込の場合

裏面の申込用紙にご記入の上、送信ください。

2.HPよりお申込の場合

関西大学東京センターのホームページ内の申込フォームより必要事項をご記入の上、送信ください。

※E-mail、お電話による申込みは原則不可。

日程 5/23、6/6、6/20、6/27（全4回）

時間 13:30~15:00
※受付は13:00から行います。

会場 関西大学東京センター
（JR東京駅日本橋口隣接・東京メトロ大手町駅B7出口直結）

対象 関心のある方はどなたでもご参加ください。

問合せ 03-3211-1670（関西大学東京センター）

主催 関西大学東京センター
協賛 中央公論新社



中央公論新社



<p>第1回 5/23(土) 13:30～15:00</p>	<p>遠近法からみる美術：江戸から明治へ 東京国立近代美術館 美術課長 蔵屋 美香</p> <p>西洋絵画の基礎の一つ、一点透視の遠近法は、地平線上に消失点を作り、そこにむかってすべてが遠ざかって行くような空間の奥行きを描き出す技法です。この講座では、まず一点透視法の原理を学びます。次に、江戸から明治に向け、この遠近法がどんな風に日本に広まったかを、絵画作品をはじめ、さまざまな視覚表現を通して考えます。</p>
<p>第2回 6/6(土) 13:30～15:00</p>	<p>陰影法からみる美術：江戸から明治へ 東京国立近代美術館 美術課長 蔵屋 美香</p> <p>西洋絵画の基礎の一つ、陰影法は、光と影の描写によってモノの立体感を描き出す技法です。江戸から明治に向け、この陰影法がどんな風に日本に広まったか、そしてどんな風に変化を遂げたかを、具体的な絵画作品を通して考えます。暗い褐色で影をつけた明治10-20年代、影を紫に彩った明治30-40年代、そして極彩色の光と影を描く大正期。美術館で作品を見る時にも、こんな視点を持つと、一歩踏み込んだおもしろさがぐんと広がります。</p>
<p>第3回 6/20(土) 13:30～15:00</p>	<p>ゴッホと自画像 美術史家(元横浜国立大学教授) 木下 長宏</p> <p>自画像は、自分自身の顔を描いた肖像画である。自分自身を描くという点で、独特の意味合いを持っている絵画である。ゴッホは、10年の画家生活の間に、40点を超える自画像を遺した。その自画像をみつめていくと、ゴッホという画家が絵を描くということにどんな思いを籠めていたかが見えてくる。自画像作品をじっくり味合う楽しみを伝えたい。</p>
<p>第4回 6/27(土) 13:30～15:00</p>	<p>写生の誕生－応挙・若冲・春卜・半江が描いた淀川絵巻－ 関西大学 文学部教授 中谷 伸生</p> <p>目の前の風景を描く写生的な絵画は、いつ、どのようにして誕生したのか？ 大坂を流れる淀川を描いた絵画は数多いが、江戸時代の京都で活躍した円山応挙の《淀川沿岸図巻》と伊藤若冲の拓版画《乗興舟》、また、大坂で活動した大岡春卜による《浪花及淀川沿岸名勝図巻》や岡田半江の《山水図巻(大川納涼図)》が有名である。この講演では、18世紀から19世紀にかけての写生による山水図を鑑賞しながら、その魅力を解説する。</p>
<p>定員</p>	<p>100名（先着順。全4回出席できなくても申込み可） ・申込みいただいた方には、後日参加証をお送りします。(5月12日発送予定) 参加証の発送以外で、受付確認の連絡は行っておりませんのでご了承ください。 ・定員になり次第受付を終了します。参加いただけない方についてはお電話にてご連絡いたします。</p>
<p>費用</p>	<p>2,000円(全4回の資料代として) ・初回参加時に一括でお申し受けます。 ・個別回のみ申込みは受け付けておりません。また、欠席回の返金はいたしません。 ・欠席された場合、後日来室いただければ講義資料をお渡しします(郵送不可)。</p>
<p>会場・問合せ先</p>	<p>関西大学東京センター 〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12サピアタワー9階 TEL 03-3211-1670 (JR東京駅日本橋口隣接・東京メトロ大手町駅B7出口直結)</p>

申込み用紙

FAX送信先 03-3211-1671

申込期限 5月10日(日)必着

住所	(〒 -)
氏名	
連絡先	TEL: FAX:
メールアドレス	